

平成 3 0 年

亀山市教育委員会第 7 回臨時会会議録

亀山市教育委員会第7回臨時会会議録

1. 日 時

平成30年8月8日（水） 午後1時開会

2. 場 所

亀山市役所本庁舎3階 理事者控室

3. 出席委員

教育長	服 部 裕
1番委員	井 上 恭 司
2番委員	大 萱 宗 靖
3番委員	宮 村 由 久
4番委員	太 田 淳 子

4. 欠席委員

なし

5. 議事参与者

教育部長	草 川 吉 次
教育総務課長（以下総務課長という。）	原 田 和 伸
学校教育課長（以下学校課長という。）	西 口 昌 毅
参事（兼）生涯学習課長（以下参事生課長という。）	亀 山 隆
図書館長	井 上 香代子
学校教育課主幹兼学事教職員グループリーダー（以下学事GLという）	高 宮 綾 子
学校教育課主幹兼教育研究グループリーダー（以下教研GLという）	西 田 浩 司
学校教育課主幹兼教育支援グループリーダー（以下教支GLという）	平 野 朋 希
教育総務課主幹兼教育総務グループリーダー（書記）	草 川 正 富
教育総務課教育総務グループ主査（書記）	西 口 幸 伸

6. 会議録署名者指名

1番委員（井 上 恭 司 委員）

7. 議事事項

教育長 始めに、議案第30号「平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書及び平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書の採択について」である。

まず、平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書について審議したいと思うが、教科書の採択については、教科書採択の公正を確保するため、三重県北勢第3地区教科用図書採択協議会では、採択業務が終了する8月31日までは、採択業務に関する文書を非公開としている。本日亀山市は決定予定であるが、関係者等にこの情報が流れると影響があるため、8月31日までは非公開としているので、傍聴人の方についても御理解願いたい。

しかしながら、その一方で透明性の確保、開かれた採択を一層推進するという教科書採択の方針もあるので、当教育委員会は会議の公開をしたいと思うがよろしいか。

(全委員異議なし)

教育長 それでは、傍聴人の方も傍聴を継続していただきたい。

議案第30号「平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書及び平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書の採択について」を上程し、事務局の説明を求める。

教育部長 議案第30号「平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書及び平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書の採択について」です。これらの教科用図書を別紙のとおり採択しようとするもので、提案理由については、三重県北勢第3地区教科用図書採択協議会で推薦された平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書及び平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書について、委員会の採択決定を求めるものです。詳細については、学校教育課長が説明します。

学校課長 平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書及び平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用

図書の採択について、説明します。

まず、平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書の採択です。委員の机上には、三重県北勢第3地区教科用図書採択協議会調査員が作成しました別冊1 中学校用教科用図書選定調査報告及び三重県教育委員会が作成しました別冊2 平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書選定に関する参考資料を配置しています。それらを参考にして平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」の教科書を決定していただきますようお願いいたします。

平成31年度に使用する中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書の採択については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律により県教育委員会の指導助言を受けながら、鈴鹿市、亀山市の2市で三重県北勢第3地区教科用図書採択協議会を組織して進めています。また、「特別の教科 道徳」の調査については、保護者の方を含めて9人の調査員を委嘱し、6月12日を始めとして7月3日まで調査委員会4回開催し、静ひつな環境のもとで公正かつ慎重に調査をしていただきました。学習指導要領の内容に基づき、当地区の生徒が使用するにふさわしい教科書を採択するという基本方針の下、別紙調査報告書に記載してありますとおり、取扱内容、内容の選択及び扱い、内容の程度、内容の構成及び配列、創意工夫、使用上の便宜の6つの項目に沿って調査をしました。

また、6月15日から7月1日までの教科書法定展示会や6月6日から26日まで鈴鹿市亀山市の中学校10校を会場に行われた移動展示会におけるアンケートから保護者や一般の方の意見も参考にして協議を重ねてきているところです。先月26日には第2回の採択協議会が開催され、採択地区内の鈴鹿市、亀山市の両市教育委員会に推薦する教科用図書を選定しました。

それでは「特別の教科 道徳」として推薦する教科用図書及び推薦理由を説明します。A3判の横長の調査報告書を御覧ください。新しい教科となる道徳では、考え議論する道徳の授業づくりが求められています。これまでに行ってきた道徳の授業は、読み物教材の登場人物の心情理解に偏った指導になったり、いじめについて考える場面ではいじめは許されないと生徒に言わせたり、

書かせたりするだけの授業になりがちであったと言われてきました。そうではなく、自分ならどうするかを正面から問い、自分自身のこととして多面的多角的に考え議論する道徳に転換する必要があります。若手教員も経験の永い教員も一緒になって考え議論する道徳の授業づくりを進めることができる教科書であるか、そして生徒については発達段階だけでなく、日本語が苦手な外国人を含む個々の生徒の個人差にも注視し、調査研究を進めました。各社の教科書は教育基本法に定める教育の目的、目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び学習指導要領に定める評価の目標を達成するために、学習指導要領に示す各学年の内容項目を網羅した適切な内容となっています。また、児童が多様な感じ方や考え方に接する中で考えを深め判断し、表現する力を育むことができるよう自らの考えを基に話し合ったり、書いたりする言語活動の充実を図ったり、問題解決的な学習や道徳的行為に対する体験的な学習を取り入れる等工夫をしています。併せて、カラーユニバーサルデザインに配慮した編集がされており、見やすくなっているとともに、再生紙や植物インクを使用する等環境に配慮されたものとなっています。各社とも紙面が大きく、文字の大きさ、字間が適切となっています。また、全体的に落ち着いた色遣いがされているところです。協議の結果、より優れている2社をAグループ、それ以外のもの6社をBグループとしました。Aグループとしては、日本文教出版「中学道徳明日を生きる」と学研教育みらい「中学生の道徳明日への扉」としました。Bグループとしては、教育出版「飛び出そう未来中学道徳」、光村図書「中学道徳君が一番光るとき」、学校図書「輝け未来中学校道徳」、東京書籍「新しい道徳」、光彩堂暁「中学生道徳自分を見つめる、自分を考える、自分を伸ばす」、日本教科書「道徳中学校生き方から学ぶ、生き方から見つめる、生き方から想像する」としました。詳細は調査報告書に記載しましたので、ここではAグループ2社の特徴を説明します。

日本文教出版「中学道徳明日を生きる」を推薦します。その理由の1点目は、特にいじめ問題を重点的に扱っているところです。それぞれの学年の目次から分かるように特に集中的に考えられるようユニット化が図られ、いじめと向き合うというユニット

が1年生で3箇所、2年生で2箇所、3年生で1箇所、いじめが起きやすいと考えられる時期を選んで書かれています。

2年生の教科書を御覧ください。30ページから47ページでは、ユニットは学習の見通しを示す扉、直接的教材、間接的教材、そして、「いじめ」防止につながる知識やスキルを紹介するコラム（プラットホーム）を用意し、生徒が見通しを持って、多面的・多角的に「いじめ」について考え、総合的に「いじめ」を未然防止できるように構成されています。

2点目は、心を揺さぶられたり葛藤させられたりする教材が多いことです。いじめ問題はもとより、今を生きる人たちの、また時代を超えて伝えていきたい先人たちの様々な生き方を取り上げ、生徒一人一人が人間として誇りある生き方を考えたいような教材を多数取り上げてあります。特に、3年の6ページには「銀メダルから得たもの」という三重県出身の吉田沙保里さんを取り上げ、輝かしい偉業の裏で、何度も苦難に見舞われてきたその姿から、苦難を乗り越える力について考えることができるように設定されています。また、3年の10ページにある「プラットホーム」や27ページの「参考」のコラムなどでも、今を生きる人たちや先人たちの生き方、言葉などが紹介されています。

3点目は、ノートが付属していることです。道徳の時間は、ワークシートやノートを使った授業がよく行われてきました。今までやってきたことを補助できるノートになっています。教科書の1教材が1ページで構成され、多様な話し合いに対応できるように、罫線やマス目がなく、自由に書き込めるようになっています。また、自由に使えるページもあり、教科書以外の教材を扱う場合にも利用しやすくなっています。また、記入したものは、ポートフォリオとして評価に利用することもできると考えています。

また、保護者の立場で考えた場合、自分の子供がどのような考えを持っているのか家庭でこのノートを見たらわかるという利点があるということです。

教員の年齢構成もこれから、50代が少なくなり、20代が多くなっていく傾向にあります。したがって、経験豊富な教師だけを想定するだけではなく、教材準備に時間をかけなくてはいけません。

進まない経験の浅い教員のことも想定し、ノートがついているこの教科書が利用しやすいのではないかと考えました。使い方によって、経験の浅い先生から経験豊かな先生まで使用形態を工夫することにより、効果が上がるのではないかと考えています。

4点目は、目次を含めて各教材のデザインやイラスト、挿画、写真など非常によくまとめられていて見やすいことです。2年の102ページにある定番教材の「夜のくだもの屋」は、地域の人のさりげない思いやりを描いた物語の雰囲気にあった暖かな挿絵が用意されています。また、1年の114ページや116ページのように躍動感のあるレイアウト構成を取り入れ、文章と写真の両面から内容を充実させている教材も多くあります。

5点目は、生徒も指導する教員も各教材で考えていく課題をはっきりと意識することができ、授業を構成しやすい作りになっていることです。各教材とも、題材目の上に主題名があり、「この教材で何を考えるのか」が明示され、導入発問としても使えるようになっています。また、題材名の下には登場人物が紹介されており、教材の内容把握を助け、議論する時間を確保しやすくなっています。教材の最後には発問例があり、さらに「問題解決的な学習」や「体験的な学習」に適した教材には、1年の60ページにあるように参考例として「学習の進め方」が設定されており授業の展開をイメージしやすくなっています。

最後に、日本文教出版の教科書はどのページを開いても、何の教材なのかはページの下に教材名が記入してあるので、一目瞭然であること、そして、2年生の46ページのプラットフォームでは、男女共同参画社会のためにという人権課題への取り組みの紹介のなかで、「三重県男女共同参画センター・フレンテみえ」が紹介されていることも調査員会で話題になりました。

次にAグループの学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」について説明します。

1点目は、「いのちの教育」が重要項目として全学年で取り上げられていることです。

全学年にわたって学習指導要領の内容項目「生命の尊さ」の教材を3点用意し、自分の命および自分の命と関わり合う他者の命、それらを支える様々な命の尊さについて思いを寄せ、さら

に、他の関係する教材を用意することで「生命の尊さ」を多面的、多角的に考える授業が展開できるようになっています。2年生の教科書では、7ページの教材分類の「かけがえのない生命の尊重」で3教材を取り上げています。特にその中で92ページの「ブラックジャック ふたりの黒い医者」では、手塚治虫さんの漫画を取り扱うという斬新な手法も取り入れています。

2点目は、生徒が問題意識を引き出す紙面になっているということです。あえて、主題名を表示せず、生徒が自ら問題意識を持ち、主体的で対話的な授業を展開できるように考えられています。あくまでも教材と出会い、それをきっかけとして他者との対話に導くためのレイアウトになっています。

3点目は、教材のあとに、クローズアップ、クローズアッププラスという特設ページが設定されていることです。2年生の4ページの目次を見ていただくと、どの教材にも設定されており、生きる上での考え方の選択肢を増やし、視野を広げて多様な学びの展開を可能にしていることです。また、学年に一つ「深めよう」という特設ページも設定され、道徳的行為に関する体験的な学習が展開できるようになっています。

しかし、日本文教出版と学研教育みらいと比較した場合、次のような点で日本文教出版の方が優れていると思われました。1点目として、学研教育みらいも、挿絵や写真、地図等の視覚的な資料が大きく掲載されており生徒が興味・関心を持ったり学習への誓いが深まったりするよう工夫されています。しかし、日本文教出版と比較すると挿絵や写真の選択や配置・大きさ等の点で、日本文教出版の方が優れているという印象を持ちました。一つ教材を比較します。3年生の教科書の日本文教出版の40ページ、学研教育みらい126ページを開いてください。両方の教科書に、

「卒業文集最後の二行」という教材が取り上げられていますので、比較しました。日本文教出版の方は、大きな挿絵が5つあり、ポイントとなる状況を補完する形で配置されています。学研教育みらいの場合は、小さめの挿絵が3つで、教室の様子や文字から読み取る必要があります。日本文教出版の40ページ6行目と学研教育みらいの126ページ4行目を見ていただくと分かるように、日本文教出版では中学生には難しすぎる言葉は、注釈

を入れるよりも別の言葉で書いたりする工夫がされています。次に同じ3年生の教科書の中で、有名な教材2つを比較します。日本文教出版は32ページ、学研教育みらいは80ページに同じく定番教材の「一冊のノート」がありますが、日本文教出版は1時間で読んで話し合える教材ということ意識して原文の良さを残しながら教材をぎりぎりまで切り詰めてあり、学研教育みらいの7ページ構成に対して、日本文教出版は5ページ構成となっています。さらに、日本文教出版では登場人物を示して内容把握を助け、議論する時間を確保しやすくなっています。文章を読むのが苦手な生徒や外国籍生徒の多い亀山市、鈴鹿市では、このような配慮がされている日本文教出版の方が良いのではないかとというのが、調査員会の意見でした。

日本文教出版と学研教育みらいの比較の2点目としては教科書の大きさです。学研教育みらいはA4版で紙面の縦横が大きく、その分、写真や挿絵が大きく見やすくなっていますが、B5版の日本文教出版の方が生徒には持ちやすく扱いやすいと考えます。日本文教出版はB5版で紙面は小さいですが、十分生徒が読みやすいように配慮がされています。また、持ち運びもしやすいと考えます。

以上のことから、採択協議会としては、全般的に日本文教出版の内容が充実していると考え、Aグループより「日本文教出版：中学道徳 あすを生きる」を推薦します。

教育長 委員の皆さんに改めて教科書を御覧いただきたい。学校長が調査部長となり、教員や保護者などが入った調査部会が調査報告書を作成している。採択協議会に出席している学校教育課長から説明したところである。各委員の皆さんいかがか。

太田委員 昨年、小学生の道徳の教科書の協議に参加させていただいたことがある。その経験から教員や保護者により検討を重ねてきた調査会の意見を尊重したいと思う。

ただ、日本文教出版「中学道徳明日を生きる」でマイナス要素は本当になかったのか。

学校課長 全ての項目でマイナス要素はないという報告でした。

教育長 学研未来の方は、各教材に主題名を表示していない。教材名の頭に「よりよい社会のために」、「安心への心構え」、「大切な

生命」等の表示があえて表示していない。あえて表示しないことで価値観を押し付けない配慮がされていると評価されている。一方、日本文教出版は主題名が表記されているが、教材名だけでなく主題名があることで評価されている。調査部会では、そのような見方の違いがあったと聞いている。

宮村委員 主題名の部分について、両教材とも丸である。それぞれの判断があろうかと思うが、そのことに合わせて、教科書の大きさと児童生徒に負担が掛っているため、なるべく小さい方がいいのではないか。その点で私は日本文教出版のサイズがいいと感じる。

大萱委員 宮村委員の意見のとおり、資料ではA4判の評価が低いが、B5判以外のものは大きさに問題があると感じる。前回の採択でもB5判であったのか。

学校課長 現在使用している教科書はないので、今回初めての採択です。

大萱委員 やはりB5判の方が扱いやすくて良いとの判断なのか。

学校課長 宮村委員の意見のとおり、やはり重さなどの影響と思います。

教支GL 教科書と部活動の荷物を含めると重くなると感じています。そういう意味では教科書はコンパクトなものが望ましいと考えます。

大萱委員 他の地域ではA4判を選ぶところもあるということか。

教支GL サイズについては教科書展示の際に保護者からの意見でもやはり鈴鹿亀山地区ではコンパクトな方が良いとの意見がありました。

教育長 A4判になると厚さは薄くなるのか。

教支GL あまり変わらないと思います。

教育長 全教科について毎日持ち帰りさせているのか。

教研GL 美術の教科書は大きい方が見やすいので、大きい方を採用することがあります。教科書を持ち帰らせないで、学校に置いておくことで対応している場合もあります。

教育長 宿題や自主学習に使うものは持ち帰るなど学校での約束事があると聞いている。

また、同じ教材でも文教出版は1時間で扱いやすいように文章が再構成されている。授業の中で話し合いや考える時間に使えるよう工夫がある。

井上委員 内容的なことは学校教育課長の報告のとおりであると思うが、法定展示でも移動展示でもそこへ足を運ぶ人が少ないと感じる。

来年の中学校の道徳以外の教科書の採択となるが、教育現場や保護者に呼び掛けをしてほしい。そして、今のこの制度が維持できるようにして欲しい。

教育長 積極的な情報発信をお願いしたい。

ほかに意見がないので採択したい。平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書は、推薦のあった日本文教出版としてよいか。

(全委員異議なし)

教育長 平成31年度使用中学校用「特別の教科 道徳」教科用図書は、推薦のあった日本文教出版とする。

学校課長 次に、平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書の採択について説明します。

平成31年度に使用する小学校教科用図書「特別の教科 道徳」以外の採択につきましては、三重県教育委員会平成29年10月16日付け文書、添付文書におきまして、平成31年度使用小学校用教科書について、「平成31年に使用される教科書は、平成26年度に調査研究したときの内容と大きく変わらないと考えられますので、市町教育委員会、採択地区協議会で採択する際に、当時の調査研究内容をもとにして不都合がなければ、必ずしも調査員、選定委員会を設ける必要はないと考えられます。」とあります。そこで、北勢第3地区教科書採択協議会では、平成31年度使用小学校用教科書について、「別冊3 平成27年度使用小学校教科用図書選定調査報告書」「別冊4 平成27年度使用小学校用 教科書選定に関する参考資料」を基に、平成26年度に採択されました、次の教科用図書を教育委員会に推薦することを決定しました。

国語「光村図書出版 国語」、書写「東京書籍 新しい書写」社会「日本文教出版 小学社会」、地図「帝国書院 楽しく学ぶ小学生の地図帳」、算数「東京書籍 新しい算数」、理科「新興出版社啓林館 わくわく理科」、生活「新興出版社啓林館 わくわく生活」、音楽「教育芸術社 小学生の音楽」、図画工作「日本文教出版 図画工作」、家庭「開隆堂出版 小学校わたしたちの家庭科」、保健「東京書籍 新しい保健」です。よろしく御審議いただきますようお願いいたします。

- 教育長 教科書が変わっていないので、前の調査報告書を生かしてよいという通知の下、三重県北勢第3地区教科用図書採択協議会でも今使用している教科書を再度推薦したということである。
- 今の教科書に特に問題はないということによいか。
- 学校課長 そのとおりです。使いにくいとか、不都合があるとの意見は聞いていません。
- 教育長 委員の皆さんいかがか。
- 大萱委員 教科書がB5より大きく感じる。使いづらくはないのか。
- 学校課長 低学年向けの場合は、文字の大きさなどに配慮して分かりやすくしていますので、教科書が大きくなることがあります。
- 教育長 学習指導要領が変更されて、学ぶ量が多くなっている所以の影響もある。
- 宮村委員 4年前の教科書をそのまま使用するというのは、この日新月异で変化する時代において良いのかどうか。指導要領が変化していないので、4年間使ってきて現場での支障はないとの評価であるのならよいのだが。
- 学校課長 来年に学習指導要領の変更が予定されていますので、それを見越しての継続の判断です。教材が変更されるとまた教材研究が必要となるので、その弊害についても考慮しています。
- 教育長 それでは、平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書は、別紙に記述されている案で採択してよいか。
- (全委員異議なし)
- 教育長 平成31年度使用小学校用「特別の教科 道徳」以外の教科用図書は、別紙に記述されている案のとおりとする。
- (ほかに質問はなく、議案第30号は可決される。)
- 教育長 議案第31号「平成30年9月亀山市議会定例会教育行政現況報告について」を上程し、事務局の説明を求める。
- 教育部長 議案第31号「平成30年9月亀山市議会定例会教育行政現況報告」であります。現況報告について別紙のとおり策定しようとするについて、委員会の議決を求めるものであります。詳細については、事務局が朗読します。
- (平成30年9月亀山市議会定例会教育行政現況報告事務局朗読)

宮村委員 2ページの通学路の安全確保で関係者間とは誰を指すのか。議会に出すのに、「情報の共有を図ってまいります」との表現でよいのかとの懸念がある。

次のウェイトリフティングでは7月に実施しているのに「開催されましたことを受け」とあり、この「受け」という言葉が気になった。「開催されましたが」でよいのではないか。

「昨年に引き続き、亀山市での開催が2度目となる」は、「昨年」「2度目」と重ねすぎである。

教科書採択について小学校のことはどう考えたのか伺いたい。

4ページの英語キャンプは今回初めてであることを強調してはどうか。

総務課長 2ページのブロック塀の点検の「関係者間」は、学校という表現になるかもしれません。情報共有だけでなく、「子どもたちの安全指導に努めてまいります」という表現になった方が良いかもしれません。表現について再度検討します。

学校課長 ウェイトリフティングは、「開催されましたが」と表現を変更します。NHK音楽コンクールはようやく2回目という意味を込めていますが、「昨年に引き続き、開催されました」等に表現の変更を検討します。

学校課長 道徳教育の推進と冒頭にありますので、小学校の教科書採択は改めて挙げていません。

英語デイキャンプは今回初めてであることを強調した表現を検討します。

井上委員 NHK音楽コンクールは文化会館にとっては歓迎すべきことであるが、開催するための労力が必要であるので、亀山市に固定しなくてもいいのではないか。いずれにしても学校や保護者による交通手段が必要となってくる。NHK音楽コンクールは亀山市についてまわる話なのかという疑問がある。

教育長 以前は松阪市で行われていたのであるが、諸事情があり松阪市から亀山市にNHK音楽コンクールの話が来た。NHK津放送局から依頼があり、亀山市が受け入れたという経緯がある。当面は亀山市が会場と言うことで継続すると考える。

井上委員 開催に伴って、教員の負担増になっていないのか。亀山市が会場となるといろいろと計画、運営などの負担があると思う。

教育長 企画、運営、リハーサルなどの準備は文化スポーツ課で行っている。学校においては練習指導が必要になっている。

宮村委員 県総合文化センターで吹奏楽コンクールにおいて、亀山中学校が準優勝したと聞いたが、同日にあったのか。

学校課長 そう聞いています。吹奏楽コンクールがあったため、亀山中学校はNHK音楽コンクールに出いていません。

井上委員 NHK音楽コンクールは、すべての中学校、小学校に広がるような動きがあるのか。

学校課長 そのような動きはありません。

井上委員 自発的であれば別であるが、横並びの考えであれば、また学校の負担になると感じる。勤務時間短縮と逆行するように思う。

太田委員 ここ数カ月で他市の教員の不祥事があったと思う。そういった不祥事について教員への指導の記載はないのか。

2 ページの部活動に関わる部分であるが、鈴亀地区大会の陸上以外の競技ではどのような状況であったのか。他の競技も平等に記載いただきたい。

3 ページの教職員のスキルアップと授業力向上の違いはあるのか。

4 ページの亀山中学校が姉妹提携している学校について、あえてここに掲載するのが良いのか。はずしてもよいのではないか。

6 ページの表彰は市教育懇談会であるのか。それは決定事項か。

学校課長 先生の不祥事については、校長会を通じて周知していますので、あえてここでは記載していません。

教員のスキルアップと授業力向上は同一の内容です。

教育部長 高梁中学校への応援メッセージのことについては、事務局内で原案を作成した段階では、記載がありませんでした。検討を重ねる中でこれを記載するべきとの意見があり、後から追記した部分になります。不用であればこの部分を削除します。

宮村委員 上の「次いで・・・」からつながるので唐突感がある。もう一工夫いると思う。

学校課長 鈴亀地区大会の陸上以外の競技は日程が違うので、現時点では結果が不明なところですが、現時点で分かる範囲で記載しています。

総務課長 市教育懇談会の場で表彰することは、教育懇談会の主催者と事前打合せをさせていただきました。
 太田委員 教育懇談会の要望時間は削減してほしくない。
 総務課長 教育懇談会の開催前に表彰式を行います。
 教育長 防犯プランに基づく点検を早くしてほしいとの意見が総合教育会議であった。教育委員会の意思を固めないといけない。
 総務課長 国のチェックリストでは点検が難しい状況です。どのように点検するかを明確にしないと学校が混乱をきたす恐れがあります。
 太田委員 P T Aでは地区委員が動くので情報を吸い上げるのは早いと思う。
 井上委員 小学校のエアコンの設置について、10校が一斉に6月中に設置できるのか。
 総務課長 今の見込みであれば、設置が完了するのは来年の9月中旬頃になります。
 井上委員 中学校と同様なスケジュールではできないのか。
 総務課長 国の補助は採択される想定ですが、現時点では中学校と同様のスケジュールは難しいと考えます。
 (ほかに質問はなく、議案第31号は可決される。)

8. その他

参事生課長 二宮金次郎像の移設について資料に基づき報告します。
 宮村委員 この像は、現在、人の目に触れていない状態なのか。
 参事生課長 市立図書館の裏に置いてあるので、普段は人の目に触れませんが。
 大萱委員 修理することは可能なのか。
 参事生課長 修理は不可能です。台座と足を復元することで対応します。
 大萱委員 廃棄する考えはないか。
 参事生課長 戦前から図書館にあったモニュメントであるため、移設をしたいと考えています。
 太田委員 いつまで保管するのか。結論を出すのはいつか。
 参事生課長 新図書館に持って行くのかどうかも含めて移設先や保存方法について議論していますが、出来る限り早く結論を出したいと考えています。
 教育長 決めるのは、この教育委員会の場合となるのか。

参事生課長 そうです。早期に結論を出したいと考えています。

9. 閉会

午後5時